



共に創る 教育の未来



『VIEW next』高校版は、今号で創刊400号を迎えた。節目となる本号の特集では、未来の社会の担い手である若者が創りたいと思っている社会と、そうした社会を実現していくために必要な学校教育について、学校内外の多様な人々が集い、語り合った。変化が激しく、予測困難なこれからの社会をよりよいものとし、一人ひとりが幸せを感じながら生きていくためには、学校教育はどうあるとよいのか。教育にかかわる読者とともに考え、未来を創る一歩を踏み出したい。

P.4 Introduction 社会と学校教育のこれまでとこれから

若者との対話から描く、これからの学校教育

P.6 対話を通して考える

私たちが創りたい社会、これからの教育

P.8 秋田先生との対話1

一人ひとりが好きなことに没頭し、学びを深められる学校に

千葉県・私立渋谷教育学園幕張中学校高校卒業 **立崎乃衣**

P.10 秋田先生との対話2

地域に飛び出し、時間割を超えた学びを深める学校に

福島県立福島高校3年生 **伊関佳純**

P.12 秋田先生との対話3

互いの個性を尊重し、失敗してもやり直せる学校に

内閣府認定特区高等学校 明蓬館高校 岐阜SNEC3年生 **清水陸志**

P.14 若者と語り合っ

一人ひとりのよさを認める学校が、誰もが幸福な社会を創る

学習院大学文学部教授、中央教育審議会委員 **秋田喜代美**

P.16 若者の言葉に耳を傾けて

多様な生き方を尊重し合える社会の実現に向けて教師がすべきこと

静岡県立小山高校 **美那川雄一** / 静岡県立静岡東高校 **神谷隼基**

3人の若者と
秋田喜代美先生
(学習院大学文学部教授、
中央教育審議会委員)
が対話

対話から見えてきた、これからの学校教育の課題を深める

これからの学校教育の実現に向けた課題

P.20 課題1 学び続ける人材の育成

自由に学び、没頭する中で、「探究し続ける人」が育つ

東京大学文科三類1年生(長崎県立諫早高校卒業) **岸 ふみ**

長崎県立諫早高校 **後田康蔵**

國學院大学 人間開発学部初等教育学科 教授 **田村 学**

P.24 課題2 地域・家庭とともに生徒を育てる

組織的な地域連携の中で生徒を育み、よりよい学校を創る

—静岡県・富士市立高校の実践から考える—

P.28 課題3 教師が生き生きと働き続けられる環境づくり

—実践事例と識者の提言から考える、「働き方改革」のあり方—

同僚性を高め、働きやすく、働きがいもある学校に

実践事例 **宮城県角田高校と宮城県教育庁の取り組み**

識者の提言 **愛媛大学大学院教育学研究科 教授 露口健司**

P.32 Message

これからの学校のために私たちができること—

生徒一人ひとりの「学びたい!」があふれ出す未来の教育を、先生方とともに創り出す

株式会社ベネッセコーポレーション 学校カンパニー長 **田村隆憲**

社会と学校教育の これまでとこれから

1974年に『進研ニュース』として創刊以来、『VIEW21』、『VIEW next』と、半世紀近い歴史を積み重ねてきた本誌。社会と学校教育のこれまでを本誌の歩みとともに振り返り、これからを見通す。

1990~

バブル経済の崩壊から 「失われた10年」へ

バブル経済が崩壊し、山一証券などの大手金融機関が経営破綻。就職氷河期が到来。

- 阪神・淡路大震災 (95年)
- Windows95 発売 (95年)
- 日本、サッカーW杯初出場 (98年)



サッカーW杯初出場を決めた日本代表。

1980~

東西冷戦終結。 日本はバブル景気に突入

都市圏の地価が急騰。携帯電話が実用化し、家庭用ゲーム機も誕生した。

- パーソナルコンピューター (PC) 普及
- スペースシャトル打ち上げ (81年)
- 東西冷戦の終結 (89年)



東西冷戦の象徴、「ベルリンの壁」が崩壊。

1970~

高度経済成長期から、 安定成長期へと移行

10年以上続いた高度経済成長が終わる。成長の弊害として公害問題が深刻化。

- オイルショック (73年、79年)
- 新東京国際空港が開港 (78年)
- インベーダーゲームの流行 (78年)



トイレトペーパーの買いだめをする人々。

社会の動き・主な出来事

社会状況が激しく変化し、 進路指導の重要性が高まる

国内の経済が冷え込む中で、ニート、フリーターの増加が社会問題に。また、子どもの学力低下が表面化。

- 学習指導要領改訂「生きる力」の育成、「総合的な学習の時間」の新設
- 大学入試センター試験開始



『進研ニュース』から『進研ニュースVIEW21』へ名称変更。学校現場とともに、これからの進路指導のあり方を考える編集方針へ。

臨時教育審議会が 個性重視の改革方針を示す

校内暴力、不登校、いじめなどが社会問題となる中で、臨時教育審議会が設置される。

- 臨時教育審議会の答申で、個性重視、生涯学習体系への移行、国際化・情報化など時代の変化への対応が提言された



B5判の情報誌に刷新。記事の中心は大学入試に関する情報。センター試験導入の直前期は、ほぼ毎号、大学入試の最新情報を提供した。

「進学率」が上昇 知識は「量」から「質」へ

大学・短大進学率は3割を超え、高校進学率が9割を超えた。一方、「詰め込み教育」や「落ちこぼれ」が社会問題化。

- 学習指導要領改訂「ゆとりある充実した学校生活の実現」へ
- 共通一次試験開始



進研模試のデータを盛り込みながら、大学入試を中心とする教育情報を掲載したタブロイド紙、「進研ニュース」が創刊。

学校教育の動き・本誌の歩み

予測が困難な時代だからこそ、未来を生きる若者と考えたい

本誌は、『進研ニュース』、『VIEW 21』、『VIEWnext』と名称を改めながら、学校現場とともに半世紀という時間を歩んできた。その間、私たちが生きる社会は大きく変化したが、その変化の中身や方向を予測することは、時代とともに一層困難になってきている。

そうした中で、学校教育が生徒に身につけさせることも確実に変わってきており、近年では、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を始めとする資質・能力の育成が推進されている。

「人を育てる」という大切な役割を担う学校とともに歩んできた本誌だが、創刊400号を迎えた今号では、予測が困難な時代だからこそ、未来を生きる若者がどのような社会を創りたいと思っているのかに耳を傾けるとともに、そうした社会を実現するためには、これからの高校教育はどうあるとよいか、識者や現場の教師も加わり、考えていく。まずは次ページからの若者の声に耳を傾けられたい。

2000~

世界同時不況。格差社会が問題に

温室効果ガスの削減が世界的な課題となり、国内では格差社会が深刻化。

- アメリカ同時多発テロ事件 (01年)
- リーマンショック (08年)
- SNS が普及



iPhone を発表するスティーブ・ジョブズ氏。

2010~

スマートフォン社会到来。経済、暮らしが変化

幅広い年代で、インターネットの利用が拡大。YouTuber が注目を集める。

- 東日本大震災 (11年)
- スマートフォンが普及
- 日本、人口減少社会へ



2012年に開業した東京スカイツリー。

2020~

コロナ禍で始まった予測が困難な時代

コロナ禍が世界に広がる。東京オリンピック・パラリンピックが開催。

- 新型コロナウイルス感染拡大 (20年)
- ロシアがウクライナに侵攻 (22年)
- 成年年齢 18 歳に引き下げ (22年)



東京五輪の開会式で入場する日本選手。

2023~

大きく変わると考えられている私たちの社会

- 2050年には、日本の人口は約1億人まで減少し、生産年齢人口(15歳から64歳)が、現在のおよそ7400万人から5300万人(70%相当)にまで減少する見込み。
- デジタル化や脱炭素化が進む中、社会からは「問題発見力」「的確な予測」「革新性」が需要の高い能力として求められる可能性。

変化を受け止め、未来を創る力の育成へ

新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休業と、その中での ICT 活用など、学び方が大きく変化。

- 大学入学共通テスト開始
- 1人1台端末の整備



「主体的・対話的で深い学び」を実践例から追究。

育成を目指す資質・能力を踏まえた教育へ

「生きる力」の育成を目指し、資質・能力が3つの柱で整理された。

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- カリキュラム・マネジメントの推進



識者による「カリキュラム・マネジメント」の解説。

新世紀を生き抜く「確かな学力」の育成

「確かな学力」、「学力向上」が強くうたわれ、学習指導要領の「はじめて規定」が緩和された。

- 英語教育の充実
- スーパーサイエンスハイスクール事業開始



現場の教師が「生徒の自立」をテーマに対談。

※年表内写真提供：ロイター=共同、共同通信社 ※年表外の街並み遠景写真提供：iStock

※主な参考資料：文部科学省「これまでの学習指導要領の変遷」、中央教育審議会「次期教育振興基本計画について(答申) 参考資料・データ集」